

【調査名】グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス

- 3-① 新技術の活用
- 3-② 官と民の共創

【実施主体】株式会社建設技術研究所/地方公共団体：東京都杉並区

① 調査概要

【課題】宅地が大部分を占める杉並区でGIを推進するためには、区民の主体的な関わりや協働が必要である。

また、区民が必要な情報を得ようとした場合、GIは関連情報が多岐に亘るため、すぐに入手できない課題がある。さらに杉並区が問い合わせを受けた場合、人員不足や公平性の観点から迅速・的確な回答ができない課題がある。

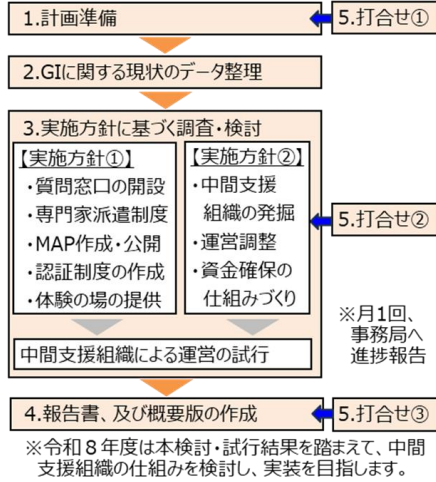
【目的】これらの状況を踏まえ、本調査では、一元的な情報基盤整備（場づくり）の仕組みや、官民連携の橋渡し役となる中間支援組織づくりを検討することを目的とした。

② 実施方針・フロー

【実施方針】

実施方針①は『一元的な情報基盤整備（場づくり）』として、相談窓口、専門家派遣、事例MAP作成、認証制度の作成、体験の場の提供を検討した。

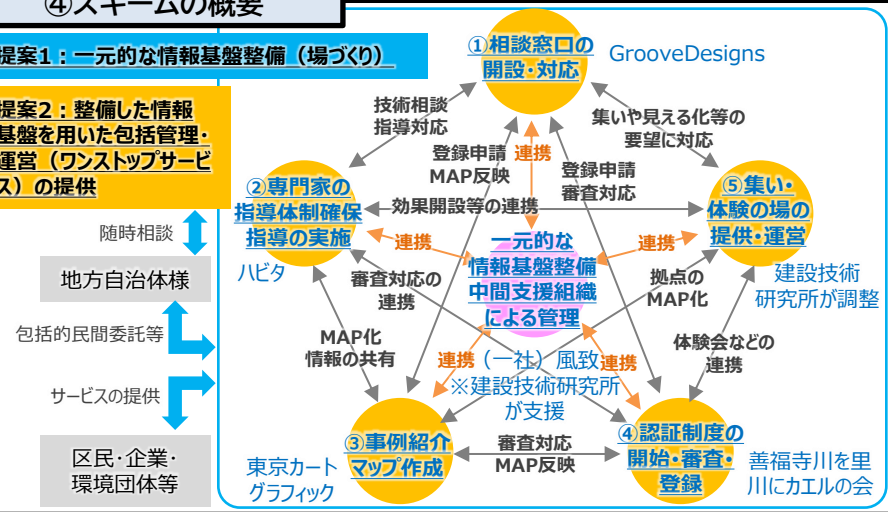
また、実施方針②で『情報基盤を用いた包括管理・運営の提供』をめざした中間支援組織の発掘、資金確保の検討等を行い、運営を試行した。これにより杉並区においてGIの推進を図る検討を行った。



④ スキームの概要

提案1：一元的な情報基盤整備（場づくり）

提案2：整備した情報基盤を用いた包括管理・運営（ワンストップサービス）の提供



③ 自治体概要

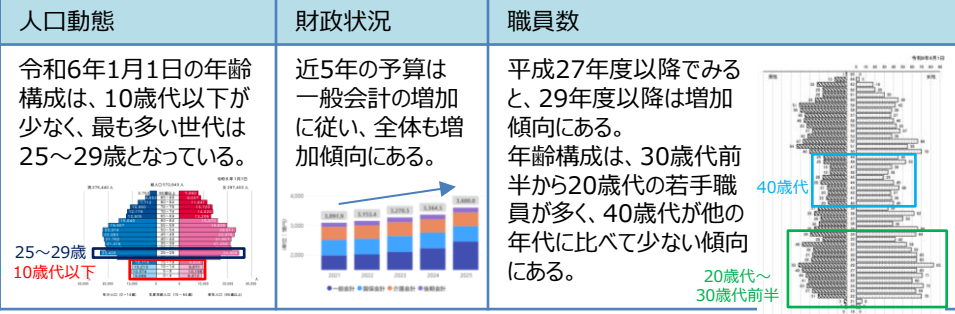
【人口・面積・立地】人口約57万人、面積34.06km²、東京23区の西部に位置

【自然の現状】緑被率約2割、神田川流域（神田川、善福寺川、妙正寺川）

【区内団体】認証NPO法人数：305、認定特例認定NPO法人数：9、区登録環境団体：24、区立公園に係るボランティア団体：180ほか

【自治体の抱える課題など】

- ・グリーンインフラの推進を実施する区民主体の持続可能な体制の在り方およびその方向性・方針を確定すること。
- ・関係者が情報共有するための情報基盤の在り方と活用方針について、既存のシステムを考慮したうえでユーザー目線で検討し構築していくこと。



【調査名】グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス

- 3-① 新技術の活用
- 3-② 官と民の共創

【実施主体】株式会社建設技術研究所/地方公共団体：東京都杉並区

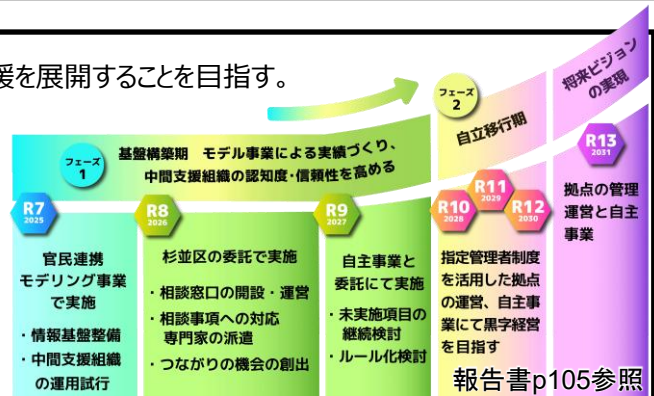
⑤ 調査結果

【GIに関する現状のデータ整理】	<ul style="list-style-type: none"> ・地図情報として基盤となる地形、地質、土地利用、緑地の分布、公共施設の位置、浸水実績、浸水想定などのデータを整理 ・令和6年度のGIAS会議の実施状況を把握・整理した地図情報から事例マップの基盤データへ活用
【実施方針①】 一元的な情報基盤整備	相談窓口の開設（すぎなみプラスを活用） ・10月17日にすぎなみプラスに「地域のグリーンインフラの輪を広げよう」のページを開設 ・GIの紹介、体験の場の実施報告等の記事を投稿した結果、個別相談窓口への相談が5件あり、実際に対応を開始
	専門家派遣制度の検討 ・専門家は必ずしも派遣するものではないため、派遣制度については、派遣ではなく専門家との連携と定義することとした ・GIに必要な専門知識から、連携する専門家リストを作成、相談への対応を想定したヒアリングシート、現場のカルテを検討
	MAP作成・公開 ・Googlemapを活用して事例MAPを制作。基盤情報として、地形、流域界、浸水実績、浸水想定ハザードマップの状況を掲載し、その上にGIの事例を解説付きで表示できるようにした。事例を追加していくことでGIの広がりが見える化する。
	認証制度の作成（検討まで） ・認証制度を行うには事例数が少ないため、GIを広げることを念頭に登録制度として検討 ・登録者への活動インセンティブとなるように、登録時にランクをつけ、ランクに応じた「なみすけ」のステッカーを配布する仕組みを検討
	体験の場の提供 ・グリーンインフラを体験して理解してもらえる場として、善福寺川や区立柏の宮公園にて体験会を企画、開催 浸水リスクや合流式下水道の課題、グリーンインフラの雨庭の解説して理解を広げた。浸透実験、雨庭メンテナンス体験を実施
【実施方針②】 包括管理・運営の提供	中間支援組織の発掘 ・R7.3作成の杉並区グリーンインフラビジョンをもとに、中間支援組織に求められる役割や能力を整理し、中間支援組織として一般社団法人風致を選定 ・風致とともに杉並区のグリーンインフラの定義、キャッチフレーズを検討して設定
	運営調整 ・本検討全般の調整 ・相談窓口開設、体験の場、その他議論等を重ねて中間支援の試行運営をサポートした
	資金確保の仕組みづくり ・中間支援組織の役割を果たすための資金確保、今回連携している風致単体のビジネスプランについて議論 ・専門家派遣費用、相談窓口の対応などの報酬、研修会などの参加費、公的補助金、広告、物販販売等による可能性を整理
【中間支援組織による運営の試行】	・試行を踏まえ、中間支援組織の運営イメージを検討したほか、中間支援に求められる能力を見直した。中間支援組織は行政と区民のつなぎ役として、地域の核となる団体や人とのネットワークを築き、GIの推進を区の全域に展開していく役割を担う。行政と中間支援組織の役割分担を整理。



⑥ 事業化に向けた展望

- ・中間支援組織が自立して杉並区内でのグリーンインフラの支援を展開することを目指す。
- 【フェーズ1】モデル事業による実績づくり、中間支援組織の認知度信頼性を高める時期。区からの委託により中間支援の業務を実施する。
- 【フェーズ2】指定管理者制度を活用した拠点の運営と自主事業を合わせて黒字経営を目指す。
- 【フェーズ3】拠点の運営管理と自主事業による自立。自走して、行政と対等なパートナーとして、ともに公共サービスを担う組織となる。



⑦ 自治体からのコメント

- 行政と区民の間のコミュニケーションを円滑にする翻訳者として中間支援組織が機能していた。各ケースに応じて区民にかみ砕いて情報を伝えることができる。
- 中間支援組織の自立に向けて、今回の取組を踏まえつつ、今後も効果的なあり方について検討していきたい。